

県内経済動向調査結果（平成22年5月分）

平成22年 7月14日
産 業 政 策 課

概 況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるものの、総じて厳しい状況が続いている。

主な業種	状 況
製 造 業	持ち直しの動きが続いている 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比36.1%増、同39.8%増となった。3カ月先の業況見通しDIは5.9から18.8となった。
建 設 業	弱めの動きとなっており先行きの見通しは不透明 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比62.0%減、同27.5%増となった。3カ月先の業況見通しDIは▲25.0から▲18.8となった。
小 売 業	引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比4.6%減、3カ月先の業況見通しDIは▲44.8から▲26.7となった。
サービス業	運輸業で回復の動きが見られる 売上高は前年同月比0.4%増、3カ月先の業況見通しDIは▲6.3から3.1となった。

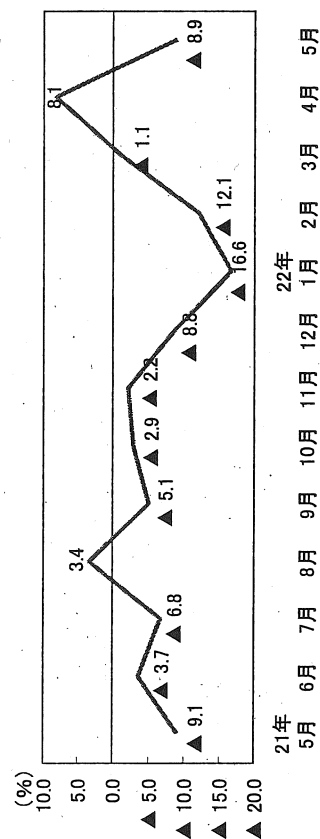
製造業の動向

1 食料品

弱含みとなっている

生産額は前年同月比8.9%減と再び前年同月を下回った。3カ月前の業況見通しD Iは▲33.3から▲20.0となった。酒類では、販売数量の減少により全ての調査対象企業で生産額が前年同月を下回った。調味料関連や加工食品で贈答品の需要が減少傾向であったり、低価格商品への移行などで生産額が落ち込んでいる。総じて見れば、ほとんどの企業で生産額が前年同月を下回っており、低調な動きとなっている。

食料品生産額前年同月比

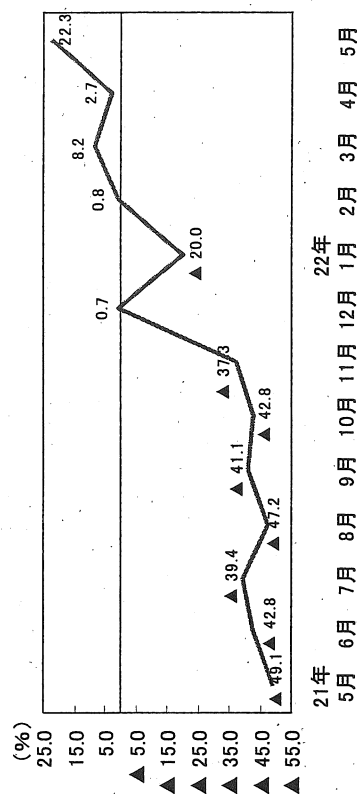


2 繊維・衣服

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比22.3%増、同7.2%増。3カ月前の業況見通しD Iは16.7から66.7となった。生産額が前年同月を上回る傾向が続いているものの、前年の生産額が悪かった反動によるものであり、一昨年の水準には達していない。一部企業では、多品種小ロット生産により利益の確保に苦慮している状況が見受けられるなど、弱めの動きとなっている。

繊維・衣服生産額前年同月比



3 木材・木製品

やや持ち直しの動き

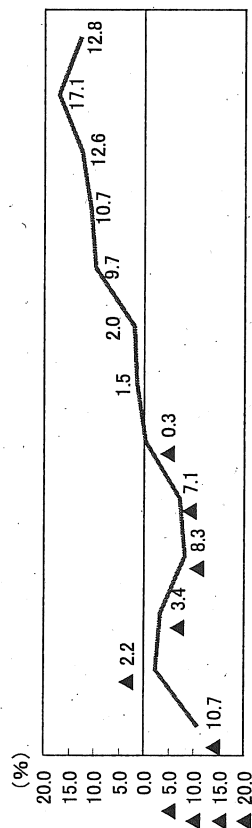
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.8%増、同16.3%増。3カ月先の業況見通しD Iは25.0と横ばいであった。

合板で、原材料の値上げに伴い販売単価が引き上げられ、全体の生産額を押し上げている。

一般製材や集成材では、販売単価の引き下げや価格競争の激化に伴い利益確保に苦慮している企業も見受けられる。

県内の新設住宅着工戸数は12カ月連続で前年を下回るなど依然低水準であり、住宅市況の落ち込みが懸念される。

木材・木製品生産額前年同月比



4 鉄鋼・金属製品

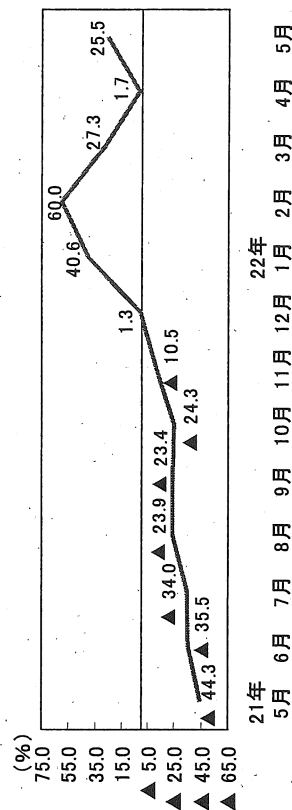
弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比25.5%増、同30.3%増。3カ月先の業況見通しD Iは18.2から36.4となった。

コンピュータ関連部品が好調に推移しているほか、自動車関連部品が好調となっている。

一方、産業設備関連やビル用建材関連では受注件数の減少などから、前年同月比でマイナスの状況となっている。

鉄鋼・金属生産額前年同月比

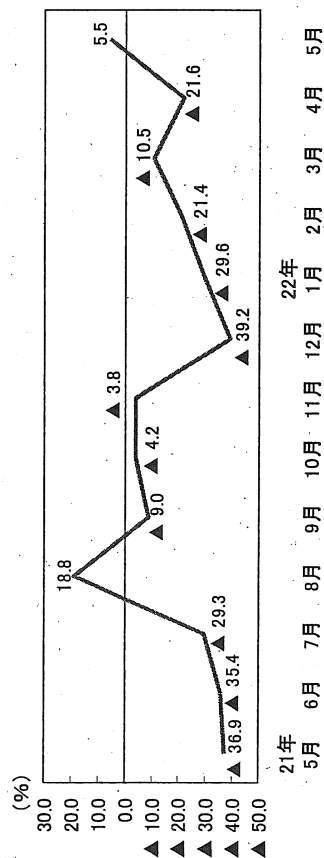


5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比5.5%増、同14.6%増。3カ月前の業況見通しD Iは0.0から37.5となった。公共工事関連で一部持ち直しの動きが見られるものの、総じて見れば、全ての調査対象企業で一昨年比を下回っており、弱めの動きとなっている。

一般機械生産額前年同月比

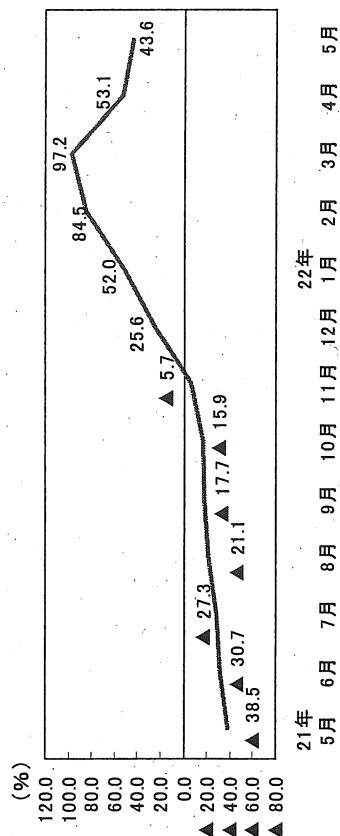


6 電気機械

持ち直しの動きが続く

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比43.6%増、同42.8%増。3カ月前の業況見通しD Iは31.6から26.3となった。前年の生産額の落ち込みが大きかったことから、前年同月比では大きくプラスとなっているものの、一昨年と比較すると11.4%減となっており、以前の水準までの回復には至っていない企業が多い。海外需要が好調であることから、コンデンサーや半導体関連で回復基調が続いているほか、通信部品でフル生産状態となっている企業も見られる。

電気機械生産額前年同月比



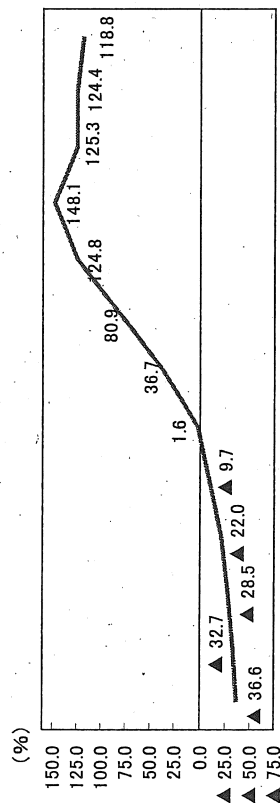
7 輸送機械

回復基調が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比118.8%増、同127.3%増。3カ月前の業況見通しD Iは▲16.7から0.0となった。

好調な自動車販売に支えられ、引き続き生産額は増加している。また、一部企業では一昨年を上回る生産額となった企業も見受けられる。

輸送機械生産額前年同月比



21年 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月
22年

8 精密機械

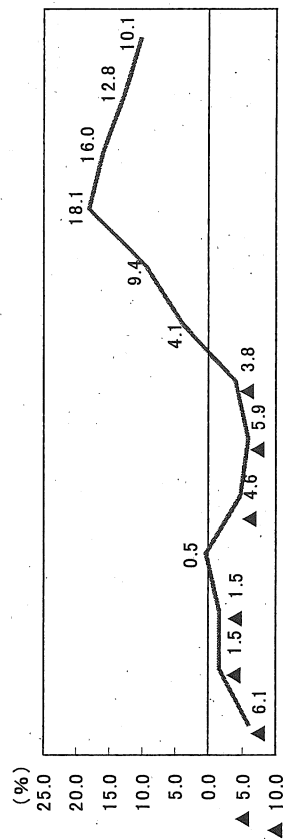
やや持ち直しの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比10.1%増、同11.5%増。3カ月前の業況見通しD Iは▲12.5から0.0となった。

光ファイバー関連部品やデジタルカメラ関連部品など総じて生産額が増加している。

また、計量器関連や時計関連でも受注が順調に推移しており、生産額が前年を上回るなど、総じて好調に推移している。

精密機械生産額前年同月比



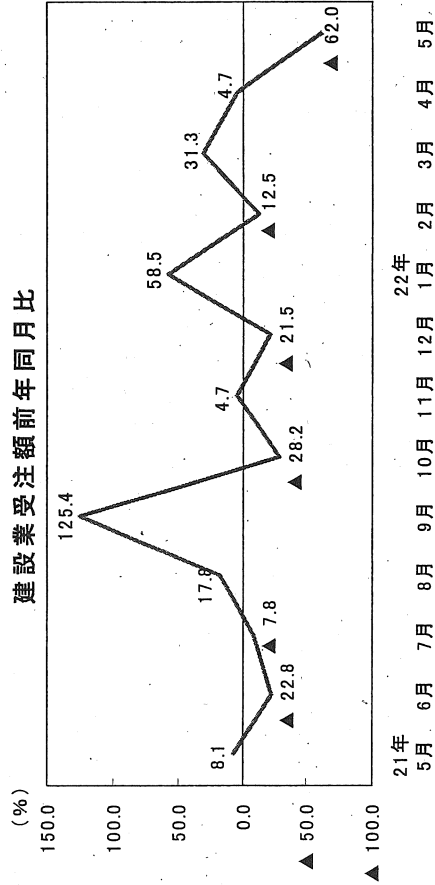
21年 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月
22年

建設業の動向

建設業

弱めの動きとなっており先行きの見通しは不透明

受注額、売工高はそれぞれ前年同月比62.0%減、同27.5%増。3カ月先の業況見通しD Iは▲25.0から▲18.8となった。
全体の受注額は前年を下回っており、公共工事の減少に対する懸念から、先行きの見通しは依然不透明である。

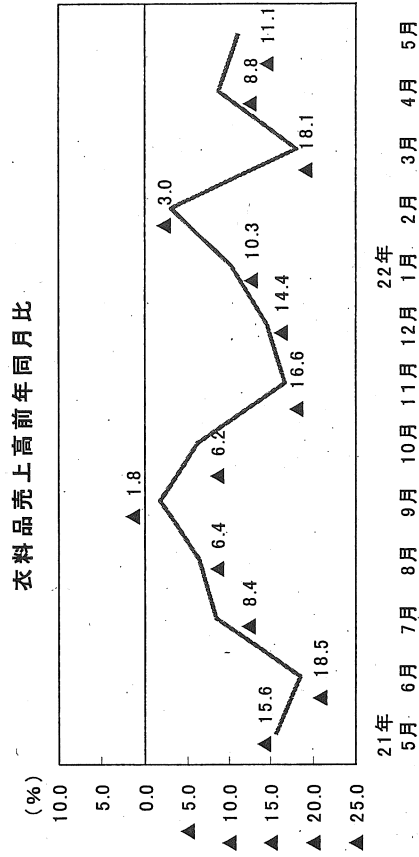


小売業の動向

1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比11.1%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲66.7から▲50.0となった。
依然として買い控えによる売上額の減少が見られ、全体としても前年を下回るなど、総じて厳しい状況が続いている。



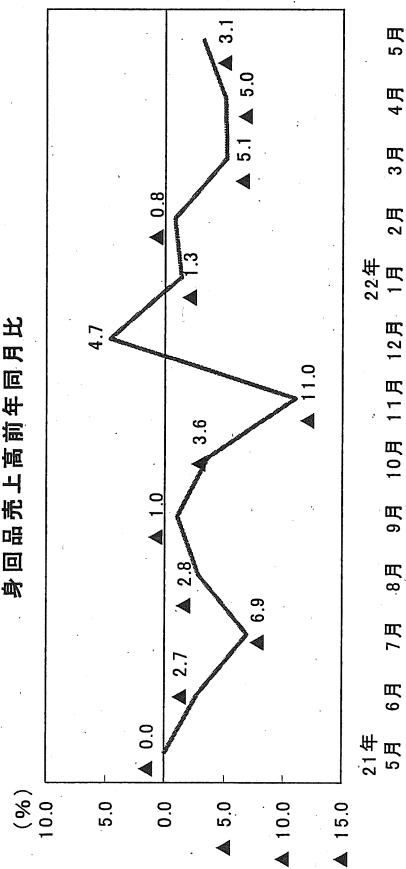
2 身回品

弱含みとなっている

売上高は前年同月比3.1%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲42.9から▲14.3となった。

ホームセンターでは、客単価の下落傾向により売上げが落ち込んでいる。一部企業ではイベントを行うなどし、売上額が前年を上回っているものの、総じて見ると弱含みとなっている。

身回品売上高前年同月比



3 飲食料品

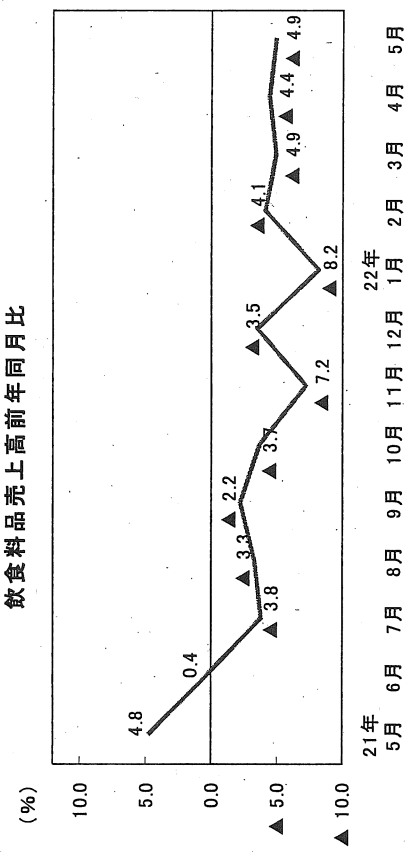
弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比4.9%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲53.8から▲30.8となった。

消費意欲の低迷や客単価の落ち込みにより、売上げは引き続き前年を下回っている。

コンビニにおいては、客数、客単価の前年割れが続いている。

飲食料品売上高前年同月比



サービス業の動向

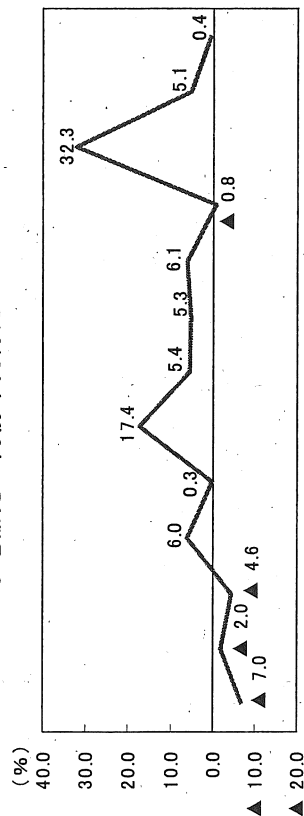
4 家電品

横ばいとなっている

売上高は前年同月比0.4%増。3カ月先の業況見通しD Iは33.3から0.0となった。

エアコンの売れ行きは好調であったものの、主力の薄型テレビは前年並みにとどまり、冷蔵庫や洗濯機が落ち込んだ。

家電品売上高前年同月比



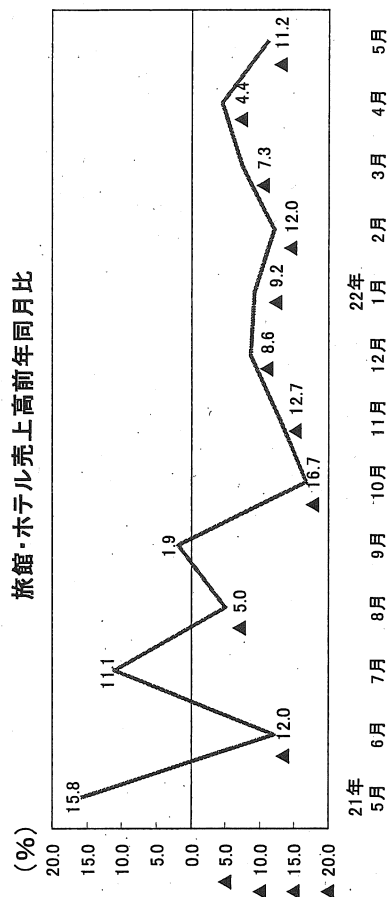
1 旅館・ホテル

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月11.2%減。3カ月先の業況見通しD Iは6.7から▲20.0となった。

・婚礼部門で売上げを伸ばした企業が見受けられたが、宿泊部門で連休期間以外の稼働率が低くなっているなど、全体として引き続き前年を下回っている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

運輸業で回復の動き

売上高は前年同月比9.3%増。3カ月先の業況見通しDIは7.7から0.0となった。

運輸業で、自動車関連部品の生産増に伴い貨物輸送量が増加しており、引き続き好調を維持している。
情報サービス業では、国の学校整備事業により売上げが前年を上回っている企業が見受けられる。

その他サービス業売上高前年同月比

